

<情報ファイル>

竹島忠昭（読者）様より

会報106号の平井憲夫さんの「原発がどんなものか知ってほしい」の手記は「原発従事者の遺書」と受け止め拝読、感銘を受けた。国を守るため、勝ち目のない戦争で命を失った軍人、軍属、市井の人々。炭鉱従事者の過酷な労働により、石炭が採掘され電力の安定供給が戦後の驚異的な復興がなされ、今日に至っている。いつも大変な目にあつた人と、その恩恵に浴する人が別である。我々が普段の生活ができることにどれほどの人さまの犠牲、恩恵に与っていることかに心をいたすべきと痛感する。しからば、原発はどうあるべきか。このような現実を直視して議論して欲しいものだ。この貴重な「原発従事者の遺書」を多くの人々に知って貰いたい！友人・知人にコピーをメール配信したい。多くの方々に認識を新たにして欲しいと思います。

それにしても、貴会の情報量の多様性と豊かさに敬意を表します。

（平井メモを提供された喜瀬さんに、このメモの背景など知りたいというご希望に応え、喜瀬さんから、付帯情報を竹島さんに差し上げたところ、下記のようなお礼のFAXが届いております）

~~~~~

門口 泰宣 様

平成23年9月23日

竹島 忠昭

この度は、貴重な資料をお送り頂き誠に有難うございました。大変遅くなりましたが、お礼のご挨拶を申し上げます。

先ず、自己紹介をさせていただきます。昭和3年(1928)生 昭和28年3月 大阪大学工学部卒、神戸工業(株)、富士通(株)を経て、通信技術畑を歩み、門口さんには海外プロジェクトでお世話になりました。従って、原子力に関する知識は皆無であります。

この度、「原発がどんなものか知ってほしい」を拝見して、何故15年も経った今頃「生涯現役かなざわ会・会報」に紹介されたのが素朴な疑問でした。

貴資料によれば、2011年に民医連会員から借用された由(出处不明)。また、大船九条の会主催の講演会でも配布されたことが判りました。

この「平井メモ」は、ネット上に全文が公開されているにも拘わらず、所謂マスコミに取り上げられた形跡もありません。

何故なのかは、想像に難くありませんが、私は現時点でも、原子力は重要なエネルギー資源の一つだと認識して居ります。しかし「平井メモ」にもある通り、「放射能」への対応が余りにも幼稚なことに愕然としました。

政府の方針とはいえ、放射能関連・科学技術の貧困さを克服する必要性を痛感致します。資料によれば、「さよなら原発」活動に、精力的に参画されているとの由、心から敬意を表します。

益々のご健勝をお祈りし、お礼のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。敬 具

~~~~~

和田道彦様（前回の講師山下晶子さんの紹介者）より

内容の濃い講演会に参加できず残念でした。要旨拝見し、教わること多々ありました。私自身の場合は脳梗塞の既往症がありますので、その再発防止が目標です。プレタールの服用継続、散歩など適度の運動、体重管理、飲酒量の抑制など続けています。

昔、私が物権法を受講した戒能通孝先生の「法律講話」が生誕百年記念で復刊されましたので、読み始めていますが、レベルの高い内容が読みやすく書かれていますので毎日が楽しみです。題名から受ける印象と違い、内容に一貫性があり、古代から現代にいたる社会思想史と言える中身です。

~~~~~

赤木喜代恵様（読者）より

会報106号有り難うございました。高齢者の関心は「寝たきり」と「認知症」「脳血管性痴呆」。よく理解できました。次の私どもの集まりに、この会報を持参、話し合いたいと思います。「絶えず向上の精神で脳に刺激を与えることの重要」とのこと。又、心を新たにして、高齢のよき日々をと考えております。

会員 中島健彦さん

昨日は、BS プレミアムでケーリー・グラント、ジーン・アーサーの「コンドル」を観ました。1939年製作と言いますから随分古い映画です。懐かしい顔ぶれでした。この映

画でも、喫煙シーンがたびたび出てきました。主人公は燐寸を持たず、そのたびに火を貰う設定でした。

~~~~~

寺田スガキ著「心がシャキットする「言葉」の置きぐすり（東邦出版）」より

一昔前まで、富山の置き薬が都会でも重宝されていたが、今でも旧来の薬局がつつぎつつぎ消えていく小さな村や町にやってくる。年寄りの多い過疎地では、今なお富山の薬箱が家庭医をつとめている。そもそも置き薬の販売業は300年以上も前から富山で始まった商法である。1690年（元禄3年）に富山藩第二代藩主・前田正甫（まえだまさとし）公が江戸城内でにわか腹痛で苦しむ三春（福島県）の藩主・秋田河内守（あきたかわちのかみ）に印籠から取り出した自藩の『反魂丹（はんごんたん）』という妙薬を与えたところ、ピタリと腹痛が治りました。それを見た諸国の大名から、ぜひ自分の領内でも販売してほしいと依頼されたのがルーツとされている。

使った分だけ代金を払って又補充され、子供へのおまけに紙風船など貰った記憶がある。近年は、もっと違っておまけを置いていく業者がある。白い半紙に筆文字で印刷したものを毎回、1枚、2枚と置いていく。それは「心の知恵」「暮らしの道」といったシリーズになっており、数種類ある。それを「言葉の置きぐすり」と命名されていて、薬が体を癒し、言葉は心を癒す。常に庶民の目線で世界に類のない商法をやってきた売薬業ならではの発想だろう。それらをいくつか紹介する。

「うっかり過ごせばすぐ三十、キョキョロしているともう四十」「小さな努力も積み重ねていけば、大きな成果を挙げることになる」「雑草はのびるのが早い、人間もわるいことはすぐおぼえる」「ひまな人は働く人より早くボケてしまう」「上の人と交わる時はお世辞を言わず、下の人と交わる時はいばらないのがよい」「人の話をまず聞きこちらの意見はそれから述べ、怒るのは最後にせよ」「しかるときはこっそり、誉めるときは人前で」「最大の敵は自分自身にある」「人には年齢に応じた『初心』がある」「自分につつましいのが儉約、人にやらないのがけち」「身に過ぎた果報は災いの基」「実際やってみないと苦労はわからない、農夫の仕事もはたで見ると詩であり絵である」

(大楽セミナー塾提供) ● 宏観異常情報(通常)

宏観異常(こうかんいじょう)とは中国の呼び名です。日本ではよく地震前兆現象といわれ、地震前に発生する動物の異常行動や自然の異常現象の事です。私たちは e-PISCO のホームページ上で身の回りで起きた宏観異常現象について集めています。集まった情報は週・1 か月・3 か月単位で全国各都道府県の地域別の地図情報として閲覧することが可能です。

(PC 向け) http://www.e-pisco.jp/r_koukan/

最近、長野県北部と富山県立山連峰直下で地震が多発しており、東日本大地震の西側プレートの活動が活発化しています。糸魚川、長野県北部(大町、松本)静岡はフォッサマグナのあるところで、M8級の地震が何時起きてもおかしくない状態です。

また、過去の記録によりますと、首都圏直下型地震、東海、東南海、南海など西日本の大地震と連動して、日本海側や、長野県内陸地震が活発化しているため、今回の一連の地震は、首都圏直下型の前ぶれの可能性も考えられます。

今回の転送メールは、当塾が参加する、NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO です。研究会の観測では、最近、全国各地で 大気イオン濃度が異常値を示しております。大きな規模の地震が発生する 可能性もありますので、身近な自然や動物、機器等に異常が見られましたら 宏観異常報告フォームにご報告くださいとの連絡です。